糸高ＰＲ新聞
高校魚川学校委員会
糸魚川高等学校
第２版　報

校章にちなみ「みずき」と命名。
自習室「翠葵」開設

糸高杏村会館にて
当面利用は八時迄
魅力化コーディネーター二人で運営

九月五日(月)本校セミナーハウス（杏村会館）でスタートした自習室「翠葵(みずき)」。

もちろん本校の校章「葵」からの命名（旧校地は親藩糸魚川藩城址→現市役所）である。

諸般の事情から当面利用は夜八時迄だ。

自習室では市の管理運営で森さんや七月から新たにコーディネーターとなった京都出身で東京大学卒の大久保翔平さん(33)が質問に親切に対応している。

予想以上の利用者数に三密回避で和室部分も急遽利用と嬉しい悲鳴。まだ利用していない糸高生は一度覗いてみたらどうだろう。

また中学生の皆さんも、学校見学の際にはどうぞ御覧ください。

ＯＰイベントの様子(上)。

糸高ＰＲの新旧生徒会長と出版委員有志。

森あやねさんに聞く

福島県出身の森あやねさん(23)。四月から、プリマペンギーノ社の幹旋で高校魅力化コーディネーターとして糸魚川市に採用された。

現在主に糸魚川高校で、推薦入試関係や総合的な探究の時間の支援、自習室「翠葵」運営にあたっている。

糸高について「先生方は熱心で生徒は素直、皆優しく迎え入れてくれ嬉しいです」と笑顔。また「糸高生のやりたいことを形にする手伝いがしたい。テストで計る能力ではなく、本来皆に備わっている能力を引き出し身に付けて欲しいです」とのこと。今後は「糸高を盛り上げるため高校生が声を上げ、若い人をターゲットとした活動を考えたいです」。

その森さんに、高校時代の思い出を伺うと「推薦で入った高校はバドミントン部一色。だから大学は一般入試で入ると決心。英単語は寝る前に覚え起きたら書き出してました。効果ありますよ。」と、アドバイスも。テストの二週間前には計画を立て、毎日五時間勉強していたそうだ。福島大学では社会の教員免許も取得。しかし社会経験を積んでこそ社会の実態を正しく教えられると感じ、民間企業に就職。さらに別の角度から教育の仕事をしたいとプリマペンギーノ社の幹旋で現職に応募したという。

糸魚川は新幹線もあり交通至便なのに自然豊か。住みやすく素晴らしい街と森さんは断言。私たちが当たり前と思っている日常や地元の素晴らしさに気付いて欲しいとのこと。

進路や勉強の相談をお願いしてみよう。

班に行き「糸高ＰＲ新聞」発行
高さい
糸さんだ
聞　鷹
新　豊
さく　香
倉　愛
又　莉　菜
木　史
保　明　日
田　永
村　日
皆　中
ＰＲ「来て熊猪松久

長校挨拶
一層の工夫と充実
校長　早川勝志

糸魚川市の援助で、九月からセミナーハウス「杏村会館」で自習室を開設しました。当面夜八時までの利用としていますが、生徒の利用状況を見て九時迄の延長を検討します。

魅力化コーディネーターの二人には、四月からの総合的な探究の時間の支援に加え、大学入試での推薦志望理由書作成の支援等を行ってもらっています。

県立高校でも運動部活動地域移行モデル事業が始まります。財政難で県内三枠ながら、本校はソフトテニス部について、糸魚川フロンティアクラブ様と協定を結び土日の指導をお願いする予定です。

また来年度は、新聞協会等の支援でＮＩＥ(新聞活用)事業の指定校にもなりました。

今後も教育活動の一層の充実に努めます。

教育再生＝イコール地域再生
プリマ社神原さん語る
魅力化事業の仕掛け人？

「歩く情熱」の神原さん。

市のコンサルタントとして高校魅力化事業を立案するプリマペンギーノ社の地域担当・神原洋子さん(写真)にお話を伺いました。

《Ｑ御社は何をする会社なんですか？

Ａ学校が楽しいと生徒が思う時間を増やすことで地域を再生する取組を手伝う会社です。地域の人と交流するプロジェクトを企画して人生の良い思い出を作ると、地元が好きになり将来戻りたいと思うようになるため人口減を抑制できるのです。

Ｑ糸高はどうしたら活性化しますか？

Ａ生徒の挨拶や探究成果発表会の様子を見ても能力の高さを確信。地域と繋がりやらされ感なく自ら探究したくなる環境が作れたら必ず活性化します。それが魅力化の本質です。

Ｑ糸魚川高校の生徒減は止められますか？

Ａ絶対止められる自信があります。生徒も大人も地元の人が地元と地元の学びの場の良さを良くわかってない。山・海・翡翠にジオパーク。工夫次第で可能性大。面白い切り口を考えるのが重要です。

Ｑ今の仕事に就かれた理由は何ですか？

Ａ高校は進学校で勉強は全然楽しくなくて。教員志望で京都大学に入るも進路に悩み、総合商社の双日に就職。そこで学校で教える内容と社会で求める力にギャップを感じ辞職、世界を旅して様々な仕事を経験しましたね。その経験から教育を変えたいと思い帰国、教科書会社に就職して社会の要望に応える科目の総合探究の担当に。その後プリマ社代表から誘われ現職です。》

神原さんの熱い思いに感動の取材でした。

頭痛調査の協力に感謝
糸高頑張れ　勝木将人先生
糸魚川総合病院脳神経外科医長

一学期にあった頭痛アンケートの協力依頼。依頼元は脳外科医の勝木将人（かつきまさひと)先生だ。

一千万国民が悩む片頭痛が軽視されている現状を憂い、特に糸魚川市の小中高生の改善の糸口を探るためアンケートを実施した。

片(偏)頭痛は七割の人が服薬だけで我慢。これは大変危険で頭痛薬常用から慢性頭痛となることも多い。

「アンケートから市内高校生の16％が頭痛に悩んでいると判明。これは成人の二倍。辛さから夢や人生を諦める人もいる。寝込む時間でやれることは沢山ある。是非病院に来てください。」

新潟高校→東北大卒の先生。ボート部で頑張るも頭痛に悩み脳外科医の道に。現在は「きゅーてぃー勝木」としてシンガーソングライターとしても活躍中だ。